



琉球の歴史を見続けたサガリバナは450年と推定される



西原町嘉手苅の内間御殿
尚巴志が、三山を統一したのは1429年のことである。以来、琉球国は第一尚氏、第二尚氏の二つの王統が支配し、明治の琉球処分まで450年にわたって王国を形成し、独自の歴史と文化を育んできた。

第二尚氏の礎を築いた尚円は、伊是名間切諸見村の生まれ。水田の耕作を巡るトラブルから島を逃れた金丸、後の尚円は、妻子や弟らとともに山原を経て首里に落ち着き、越来王子に仕える。越来王子は後の尚泰久王である。尚泰久は、海外交易を盛んに行い琉球の国力を増大させた優れた指導者であり、万国津梁の鐘を铸造させたことでも後世に名を残した人物であった。

さて、越来王子が王位についた後、一介の農民に過ぎなかった金丸は、次第に頭角を現し、内間地頭、ついには御物城御鎖側に登り詰める。

尚泰久の死後即位した尚徳は、野望に満ちた人物だったようで、遠く喜界島まで遠征したりするが、若くして死去した。その後を受け、金丸は周囲に推されて王位につき尚円と名乗る。時に56歳、第二尚氏の誕生である。

尚泰久の死後、尚徳王と対立した金丸は、一時引退して西原間切内間村に居を構えた。その住居跡が後に整備されて、内間御殿となった。

御殿前庭のサガリバナは、樹齢450年と推定される古木である。長い時を経て人々の営みを見続けてきた「内間御殿のサガリバナ」は、これから先も私たちが静かに見守ってくれることであろう。

「地域だより 20年5月号」記事中に誤記がありました。訂正文を掲載してお詫び致します。【1面下段の佐敷グスク六行目】上グスク

サザン協理事会開催

20年度事業計画、予算承認

サザンクリーンセンター推進協議会（会長・古堅國雄与那原町長）の理事会が6月2日、南部総合福祉センターで開催された。会議では提出された5件の案件が審議された。



古堅國雄会長

事務局 事務局長から平成19年度活動状況、歳入歳出

決算の報告がなされ、続いて平成20年度事業計画（案）、予算（案）について審議がなされそれぞれ承認された。（3面に記載）

神谷明徳前八重瀬町収入役の退職に伴い、後任の人事案件については、現八重瀬町会計管理者の石原明氏を後任監事とする提案が了承された。

歳入となる負担金については、行政組合から事務委託を受けているサザン協において、平成20年度当初予算は前年度繰越金からの充当を前提に歳入を確保していたが、7月から糸満市が加わることにより、

6月末時点で糸満市以外の5市町に係る繰越金を清算することとなった。そのため、7月以降は全て負担金で充当することになったため、南部広域行政組合負担金額は総額で764万円ほど（20%）の増となる。

サザン協では、7月1日の糸満市加入後の補正予算を編成し、三役会を経て理事会に諮ることとなる。

サザン協上部組織である南部広域行政組合でも同等の補

監事 石原明
（八重瀬町会計管理者）



任期 平成20年6月2日～平成21年3月31日

平成20年度南部広域行政組合負担金額

市町村名	当初負担金	変更後負担金	差 額
豊見城市	9,329,000円	9,179,000円	△150,000円
南 域 市	6,504,000円	6,431,000円	△ 73,000円
八重瀬町	4,402,000円	4,373,000円	△ 29,000円
与那原町	3,079,000円	3,077,000円	△ 2,000円
西 原 町	6,327,000円	6,246,000円	△ 81,000円
糸 満 市	-	7,983,000円	7,983,000円
合 計	29,641,000円	37,289,000円	7,648,000円

正予算を編成し議会提案していくこととなる。サザン協の三役会は7月9日、理事会は18日の午後2時に開催予定である。



南部広域行政組合にて

平成19年度 サザンクリーンセンター推進協議会決算書

(歳入) (単位:円)

款	項	予算現額	収入済額	備考
1. 諸収入		31,405,000	31,404,997	
	1. 預金利子	1,000	17	
	2. 雑入	31,404,000	31,404,980	南慶協解散に伴う決算剰金(5市町分) 13,404,980円 南部広域行政組合より事務委託料 18,000,000円
歳入合計		31,405,000	31,404,997	

(歳出) (単位:円)

款	項	予算現額	支出済額	不用額
1. 推進対策費		26,745,000	14,684,178	12,060,822
	1. 推進対策費	26,745,000	14,684,178	12,060,822
2. 予備費		4,660,000	0	4,660,000
	1. 予備費	4,660,000	0	4,660,000
歳出合計		31,405,000	14,684,178	16,720,822

収入済額 31,404,997円 支出済額 14,684,178円 差引残額 16,720,819円

平成19年度 サザンクリーンセンター推進協議会事業活動報告のまとめ

1. 説明会及び意見交換会の実施
 - ①構成市町議会議員説明会(4回)
 - ②サザン協正副会長及び糸満市議会議員意見交換会
 - ③サザン協正副会長及び糸満市長意見交換会
2. 各部会会議の開催
 - ①部会全体会議(2回)
 - ②施設建設選定部会(第1部会)会議(6回)
 - ③地域振興部会(第2部会)会議(1回)
 - ④広域化研究部会(第4部会)会議(2回)
3. 各種会議の開催
 - ①事務局連絡会(2回)
 - ②正副会長会議(5回)
 - ③理事会(3回)
 - ④理事会及び第1部会合同会議(1回)
 - ⑤第1部会正副部会長会議(2回)
 - ⑥サザン協正副会長及び糸豊正副管理者調整会議(1回)
 - ⑦市町長会議(9回)
 - ⑧副市町長会議(3回)
 - ⑨市長議長及び清掃組合議長会議(3回)
 - ⑩コンサル選定委員会(3回)
4. 先進地視察及び研修会の実施

[県内]

 - ①美島環境クリーンセンター(市町長)
 - ②島尻・東部清掃工場(第1部会委員)
 - ③浦添市クリーンセンター、那覇・南風原クリーンセンター(第1部会委員)
 - ④中部北、本部町、倉浜(事務局)

[県外]

 - ①東京二十三区清掃一部事務組合(正副会長、市町長)
 - ②宗像、古賀、有明、都城市(第1部会委員)
 - ③宗像、古賀、有明、都城市(清掃組合議会議員等)

[研修会]

 - ①「最近の廃棄物処理技術の動向について」講師:栗原英隆(理事、部会委員)
 - ②「最近の廃棄物処理技術の動向について」講師:栗原英隆(清掃組合議会議員)
 - ③具志頭中学校生徒会生活委員研修(事務局)

平成20年度サザンクリーンセンター推進協議会予算書

(歳入) (単位:千円)

款	項	金額	説明
1. 繰越金	1. 繰越金	16,720	平成19年度より
2. 諸収入	1. 雑入	6,341	南部広域行政組合より事務運営委託料
計		23,061	

(歳出) (単位:千円)

款	項	金額	区分	金額	説明
1. 推進対策費	1. 推進対策費	12,883			
			1. 報酬	1,968	会長、副会長、役員、住民代表、理事
			8. 報酬費	30	講師謝礼金
			9. 旅費	1,651	調査・研修旅費等
			11. 需用費	4,436	印刷製本費
			12. 役務費	1,035	郵送料
			13. 委託料	3,000	広報紙製作事務委託料
			14. 使用料及び賃借料	753	自動車借り上げ、事務機リース料
			18. 備品購入費	10	図書購入費
2. 予備費	1. 予備費	10,178		10,178	
計		23,061		23,061	

平成20年度サザンクリーンセンター推進協議会事業計画

時期	内容	備考
H20年4月	先進地調査(直結灰溶融の検討)	佐賀県、長崎県
H20年6月	総会(理事会)	平成19年度決算、経過報告 平成20年度予算、事業計画 監事の選出
H20年7月	総会(決算、経過報告) (糸満市加入後、予算、事業計画の審議)	
7月~12月	専門部会の開催 ・施設建設選定部会(第1部会) ・ごみ処理研究部会(第3部会) ・広域化研究部会(第4部会)	基本構想(三方式)の検討 ごみ減量化計画の検討 組織統合の協議
H21年1月	・理事会 ・施設建設選定部会(第1部会) ・地域振興部会(第2部会)	基本構想の決定 候補地選定 財政計画の検討
H21年 2月~3月	・事業説明	各市町議会、地域住民 各種団体、その他

※正副会長会議及び市町長会議等は、必要に応じ開催する。

糸満市議会 サザン協加入を決議

6月16日、糸満市議会の定例会において、同市がサザン協への加入に必要とされる南部広域行政組合規約の改正が冒頭で発議され賛成多数で可決された。

今後はサザン協の上部組織である南部広域行政組合の構成12市町村も6月定例会での議決、さらに県知事への規約変更許可申請を行い、7月1日の正式加入となる見込み。糸満市ではサザン協への加入後に同組合への負担金を計上することとしている。



賛成多数で可決された

豊見城市議会議員説明会

サザン協では6月17日、豊見城市議会議員への説明会を開催した。これは、豊見城市議会事務局からの要請で、サザン協の上部組織である南部広域行政組合の規約変更に係る議会への提案が、6月20日から始まる市議会定例会を前に補足説明の形で行われたものである。

説明会では、規約改正に係る事務手続きの流れについて説明があり、議員からはごみ処理における組織運営のあり方に対して質問や意見があった。



豊見城市役所6階にて

地域の偉人

自由民権運動の父

義人 謝花 昇



八重瀬町(旧東風平町)が誇る偉大な人物謝花昇は、明治中期の沖縄の新しいうねりの中、沖縄の為に尽くした人で、自由民権運動の父、沖縄解放の先駆者義人謝花昇として町民の最も尊敬する人物である。今回の人物編では謝花昇を3回連載で紹介する。第2回目は「昇の幼少期と学業②」について紹介。

「昇の幼少期と学業②」

さて、東風平小学校に入学した昇は翌年の明治14年七月に沖縄師範学校速成科に入学する。当時は廃藩置県から二年後のことで、当然高等教育を受けるのは、首里・那覇の士族が殆どだったと考えられるが、平民である昇が入学できたのは彼の学業に対する意

浦崎榮徳氏(町史編纂委員)

一九四七年生まれ、八重瀬町世名城出身。〇八年に八重瀬町役場を退職し、現在、同町史誌編纂に携わる。在職中は、旧東風平町で同町出身の謝花昇研究に関わる傍ら、町立歴史資料館の建設に奔走。旧具志頭と合併する〇八年まで館長を務める。

欲と能力が評価されたのであろう。

明治15年10月県費派遣留學生に選ばれたのである。選抜にあたってはおそらく試験であろう。第1回県費派遣留學生となったのは5名で昇以外はいずれも士族の出身であった。

東京遊学に派遣された5名は、明治天皇に拝謁を許され、金一封とお吸物をいただいたのである。

名も無き南島の子どもが、天皇に拝謁を許されたということは、どれほど光栄に感じられたか計り知れない。そして学習院大学の中学科に入学し、明治16年1月から授業が開始された。中学科に入学した生徒の顔ぶれは、それぞれ名門の出であり華族の子息達であった。即ち旧藩主の子息や県から選抜された優秀な人材が

集まっていたのである。

昇はこれらの人々に交じって勉学に励み、毎月末には小試験が行われ、又、7月には大試験が行われたが、試験の度ごとに上位であった。(当時の成績表は学習院大学に保存されている。また、町歴史民俗資料館にもコピーで紹介されている)当時学習院はスポーツが盛んで、昇は棒高跳びが最も得意で、天皇が行幸されたとき、天皇の御前で棒高跳びを跳び光栄に浴したほどであった。昇は学科においても他の学生に比べて成績はすこぶる優秀であり、抜群の逸材として全校の驚異であったという。それに伴い体操の成績も優秀だったので、明治17年3月から助教も勤めたという。(続)



農科大学卒業記念(1891年) 後列右より二番目が謝花昇